
F D活動報告書

(2019年度)

鹿児島女子短期大学



— 目 次 —

1. 学生による授業評価 … 1
2. 授業公開 … 9
3. F D研修会 … 13

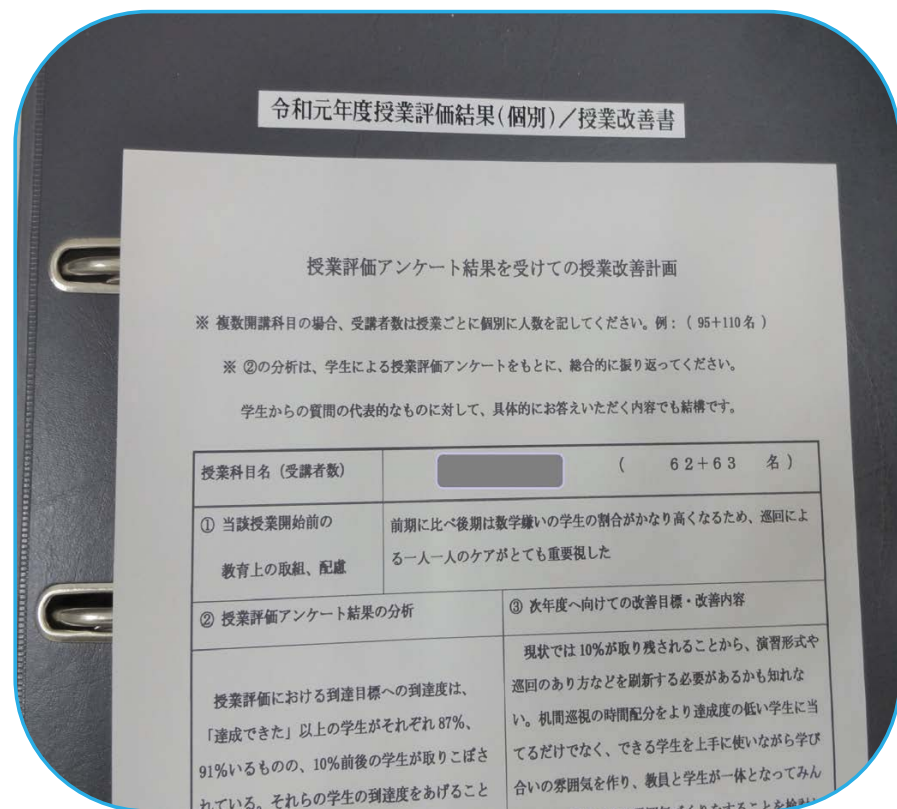
1 学生による授業評価

<授業評価アンケート実施内容>

(単位:名)

年度	学期	専任教員数	実施教員数 (専任)	授業改善書 提出教員数 (専任)
2019年度	前期	42	42 (100%)	41 (97.6%)
	後期	42	42 (100%)	41 (97.6%)

(前・後期1名授業改善書等未提出: 2020年3月退職者: 2019年度は、非常勤教員は未実施)



◆授業評価等依頼文書(例示: 2019年度後期: 授業評価アンケート及び授業改善書提出依頼)

授業評価及び授業改善報告書について

FD委員会

1 後期授業評価について

実施期間: 1月~2月8日(土)

*開始日は教務課より教員と学生にお知らせがあります。

実施方法: 学生が unipa のアンケート機能を用いて回答します。アンケートの回答方法については unipa でも知らせますが、15 回授業の科目では、先生方からも授業中にご指示をお願いいたします。時間があれば、授業内で実施していただいた方が回収率は上がります。授業内で実施されない場合でも、アンケートへの回答を依頼し、とくに第 20 問(達成度自己評価)の回答に必要な、当該科目で修得すべき主な DP の内容と番号を、板書して学生に伝えて下さい。
 なお、全科目の DP 一覧表が、unipa 上で閲覧できるようになりますので、各自ご確認ください。DP 一覧表は、学生も回答時に閲覧可能です。

2 授業改善報告書について

集計結果の公開期間: 2月10日(月)~3月31日(火)

*この期間、科目担当者のみ unipa で閲覧・印刷できます。

*前期の集計結果も同時に公開します。

報告書の提出期限: 3月31日(火)

報告書の作成方法: アンケートの集計結果を踏まえ、前期分と後期分に分けて、担当科目全てについて、授業改善報告書を作成してください。なお、授業改善報告書のフォームは、1枚で複数科目について報告するフォームに変更の予定です(サイボウズからダウンロードできるようにします)。

報告書の提出方法: 各自、担当科目全ての授業改善報告書に、印刷した集計結果(全科目分)を添付し、左上をクリップやステープラーで綴じて、事務室にある FD 委員会のレターケースに提出してください。

以上

◆授業評価アンケート (Universal Passport 使用) (例示: 2019 年度後期)

123456789 科目A (教員B)

※【令和元年度後期】授業評価アンケート

※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて…

1. あなたは授業を何回欠席 (公欠も含む) しましたか。 (必須)
 欠席なし 1回 2回 3回 4回以上
2. あなたは『講義要項』をよく読みましたか。 (必須)
 全く読んでいない あまり読んでいない どちらともいえない おおむね読んだ 十分に読んだ
3. あなたは予習や復習を十分にしましたか (必須)
 全くしていない あまりしていない どちらともいえない おおむねやった 十分にやった
4. あなたは授業の内容を理解することができましたか。 (必須)
 全くできていない あまりできていない どちらともいえない おおむねできた 十分にできた
5. あなたの受講態度を次の中で評価してください。 (必須)
 悪い どちらかという悪い どちらともいえない どちらかという良い 良い

授業について…

6. 授業は講義要項に沿って行なわれましたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
7. 授業はよく準備されていましたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
8. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
9. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
10. 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う
15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)
 全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う

16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須)

全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う

17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須)

全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う

18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。 (必須)

全くそうは思わない そうは思わない どちらともいえない そう思う 強くそう思う

19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須)

悪い どちらかという悪い どちらともいえない どちらかという良い 良い

20. この授業の主要な到達目標 (DP一覧表参照) について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。 (必須)

ほとんど達成できなかった あまり達成できなかった どちらともいえない おおむね達成できた 十分達成できた

21. この授業で良かったと思うことを入力してください。

22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。

23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。

回答

◆「授業改善に向けて」用紙（例示：2019年度後期）

授業改善報告書（後期）

No. 1

作成日：令和 年 月 日

当教員名（所属） 〇〇 〇〇 （ 〇〇〇学科 ）

授業評価アンケート結果を受けての授業改善計画

※ 複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください。例：（95+110名）

※ ②の分析は、学生による授業評価アンケートをもとに、総合的に振り返ってください。

学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただく内容でも結構です。

授業科目名（受講者数）	(名)	
① 当該授業開始前の教育上の取組、配慮		
② 授業評価アンケート結果の分析	③ 次年度へ向けての改善目標・改善内容	

授業科目名（受講者数）	(名)	
① 当該授業開始前の教育上の取組、配慮		
② 授業評価アンケート結果の分析	③ 次年度へ向けての改善目標・改善内容	

◆授業評価集計結果（例示：2019年度後期：(Universal Passport上での結果表示)）

授業評価一覧 > 授業評価結果参照 戻る

20

期間：2020/01/10（金）08:30～2020/02/08（土）23:59
対象人数：76人 回答数：68人 回答率 89.5%

※【令和元年度後期】授業評価アンケート
※次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。

あなたについて...

- あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。 (必須)

比率	人数	
欠席なし	81%	55人
1回	16%	11人
2回	1%	1人
3回	1%	1人
4回以上	0%	0人
- あなたは『講義要項』をよく読みましたか。 (必須)

比率	人数	
全く読んでいない	15%	10人
あまり読んでいない	28%	19人
どちらともいえない	34%	23人
おおむね読んだ	19%	13人
十分に読んだ	4%	3人
- あなたは予習や復習を十分にしましたか (必須)

比率	人数	
全くしていない	19%	13人
あまりしていない	13%	9人
どちらともいえない	34%	23人
おおむねやった	31%	21人
十分にやった	3%	2人
- あなたは授業の内容を理解することができましたか。 (必須)

比率	人数	
全くできていない	12%	8人
あまりできていない	21%	14人
どちらともいえない	32%	22人
おおむねできた	31%	21人
十分にできた	4%	3人
- あなたの受講態度を次の中で評価してください。 (必須)

比率	人数	
悪い	0%	0人
どちらかという悪い	0%	0人
どちらともいえない	34%	23人
どちらかという良い	47%	32人
良い	19%	13人

授業について...

- 授業は講義要項に沿って行なわれましたか。 (必須)

比率	人数	
全くそうは思わない	4%	3人
そうは思わない	4%	3人
どちらともいえない	34%	23人
そう思う	50%	34人
強くそう思う	7%	5人
- 授業はよく準備されていましたか。 (必須)

比率	人数	
全くそうは思わない	4%	3人
そうは思わない	0%	0人
どちらともいえない	29%	20人
そう思う	53%	36人
強くそう思う	13%	9人
- 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。 (必須)

比率	人数	
全くそうは思わない	10%	7人
そうは思わない	4%	3人

どちらとも思えない		29%	20人
そう思う		47%	32人
強くそう思う		9%	6人
9. 教員の説明は分かりやすかったですか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		19%	13人
そうは思わない		18%	12人
どちらとも思えない		29%	20人
そう思う		24%	16人
強くそう思う		10%	7人
10. 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		16%	11人
そうは思わない		16%	11人
どちらとも思えない		34%	23人
そう思う		26%	18人
強くそう思う		7%	5人
11. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		6%	4人
そうは思わない		9%	6人
どちらとも思えない		35%	24人
そう思う		41%	28人
強くそう思う		9%	6人
12. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		3%	2人
そうは思わない		16%	11人
どちらとも思えない		21%	14人
そう思う		49%	33人
強くそう思う		12%	8人
13. 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		7%	5人
そうは思わない		15%	10人
どちらとも思えない		26%	19人
そう思う		37%	25人
強くそう思う		13%	9人
14. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		4%	3人
そうは思わない		18%	12人
どちらとも思えない		31%	21人
そう思う		37%	25人
強くそう思う		10%	7人
15. 教員の熱意を感じましたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		3%	2人
そうは思わない		6%	4人
どちらとも思えない		24%	16人
そう思う		54%	37人
強くそう思う		13%	9人
16. 教員は、学生に公平に接していましたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		6%	4人
そうは思わない		4%	3人
どちらとも思えない		24%	16人
そう思う		56%	38人
強くそう思う		10%	7人
17. テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		4%	3人
そうは思わない		3%	2人
どちらとも思えない		26%	18人
そう思う		59%	40人
強くそう思う		7%	5人
18. この授業にとって教室の環境、設備などは適切でしたか。(必須)		比率	人数
全くそうは思わない		1%	1人
そうは思わない		1%	1人
どちらとも思えない		18%	12人
そう思う		66%	45人

強くそう思う		13%	9人
19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。(必須)		比率	人数
悪い		10%	7人
どちらかという悪い		4%	3人
どちらとも思えない		37%	25人
どちらかという良い		40%	27人
良い		9%	6人
20. この授業の主要な到達目標（DP一覧表参照）について、自分の達成度を次の5段階で評価してください。(必須)		比率	人数
ほとんど達成できなかった		4%	3人
あまり達成できなかった		6%	4人
どちらとも思えない		26%	18人
おおむね達成できた		56%	38人
十分達成できた		7%	5人
21. この授業で良かったと思うことを入力してください。			
表示			
22. この授業で良くなかったと思う点、改善すべきだと思う点を入力してください。			
表示			
23. この授業について、教室・施設・設備も含め、不満・要望・その他があれば入力してください。			
表示			

2 授業公開

<授業公開週間実施内容>

(単位:名)

実施期間	参観科目数	専任教員数	授業参観記録提出教員数	備考(教員内訳)
2019年 11月25日(月)~12月6日(金)	(延べ) 20	42	16 (2名: 3科目提出)	児童教育:6/21名 生活:5/11名 教養:5/10名

◆授業公開週間について①「お知らせとお願い」(2019年度)

教員 各位

令和元年 11月14日

FD委員長 平 嶋

お知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時候となっております。

さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。つきましては、教員メールボックス脇に用意した「**後期時間割**」に、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ(×)印をつけていただきますようお願いいたします(一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。)

なお授業参観の際は、実習その他による休講等があるため、事前に授業担当者へ参観希望である旨をお伝え下されば幸いです。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、添付の参観感想用紙を**12月13日までに**指定の提出ボックス(メールボックス上に11月25日より設置)へお入れください。

記

令和元年度後期授業公開週間 11月25日(月)~12月6日(金)

概 要:①上記の期間中に授業の参観ができます。90分間に複数の授業を参観していただいても構いません。

②期間中は、「授業公開週間時間割」に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入退室できます。

参 観 後:①参観者は、「授業参観記録」に感想等を記入し、提出ボックスへ提出して下さい。

②記録用紙は1授業につき1枚の記入となります。

③記録用紙を回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡します。(ただし、コピーを1部、FD委員会で保管します。)

以上

◆授業公開について②「公開週間・時間割確認のお知らせ」(2019年度)

授業公開週間時間割

授業公開週間(11/25~12/6)の時間割を準備いたしました。

各学科の時間割について、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ(×)印をつけていただきますようお願いいたします(一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。)

*** 非常勤講師の皆様も、授業公開にご協力いただいております。
できるだけ、参観にもご協力いただきますようお願いいたします。***

11月14日 FD委員会

◆授業公開について③「授業公開学生掲示」(2019年度)

2019.11.14

授業公開週間のお知らせ

FD委員会

本学における授業改善の一環として、「授業公開週間」を実施します。

これは、教員間で授業を参観し合うことにより、各教員が自分の授業を見直して質の向上を図ることを目的としています。期間中は、学生の皆さんが受けている授業を、本学教職員または非常勤講師の先生方が参観されることがありますので、その際は理解と協力をお願いします。

実施期間：11月25日(月)～12月6日(金)

以上

◆授業公開について④「授業公開参観記録様式(常勤)」(2019年度)

令和元年度 授業参観記録

科目名		担当者	先生
参観日時	月 日 ()	1・2 3・4 5・6 7・8 9・10	限目
記入者	児童教育学科 生活科学科 教養学科 非常勤講師 事務職員 その他 ()		
	氏名		
授業についての感想			

※12月13日(金)までに提出ボックスにご提出ください。

◆授業公開実施報告(2019年度)

2019年度 授業公開週間について(報告)

○実施期間：2019年11月25日(月)～12月6日(金)

○報告書提出者数

学 科	人 数	備 考
児童教育学科	6	(1名：3科目参加)
生活科学科	5	
教養学科	5	(1名：3科目参加)
合 計	16	(総提出数：20)

○参加科目一覧

国語科指導法	中国語Ⅱ	表現の指導法	保育内容表現の指導法
情報サービス演習Ⅰ	倫理学	保育指導法の研究	読書と豊かな人間性
臨床人間学	情報技術と社会(2)	特別支援教育	栄養生化学Ⅱ
東アジア現代文化論	現代社会学	こどものための哲学	食品評価・鑑別実験
ビジネスワーク(3)			

- ・選択科目ということもあり、やる気のある学生14名が受講し、実験を行うのにはちょうど良く、指導も行き届き、スムーズに行われていた
- ・導入が楽しく学生の集中力が高まっていった。前回提出の感想や指導案を紹介し、振り返りがリアルな内容を持っていた。総合的な指導について、パワーポイントを用い、具体的にわかりやすく説明していた。見直しを持つことで学生が主体的になることがよくわかり、変化に富む展開で学生たちが飽きないための工夫が多々あった。100名でも演習が可能であることを示すような授業であった
- ・これまで授業されてきた実技内容や、実際に幼児と関わり指導されてきた経験などを具体的に絡めながら話をされていて、学生たちも楽しく内容を理解していた。途中ピアノでの演奏なども取り入れたり、学生からの意見を引き出すなど発問ややりとりを積極的に加えながら学生に考えさせる授業となっていた
- ・ICTを活用した授業であった。まずICTを活用した実践例などの話をし、次いでアプリを使って童歌作りに取り組みされていた。学生自身のiPhoneや用意したiPadを使うことで一人一人が気軽に曲作りに取り組むことができているように思えた。前時までの絵描き歌で描く絵と歌詞、この時間の作曲という組み合わせが良かった
- ・優しい語り口で学生たちも安心して厳しい倫理のテーマに取り組んでいた。留学生も多く受講していて参考になった
- ・結婚に関する内容で、学生たちもしっかりと聞き反応していた
- ・該当科目は本学生にとって非常に難しいものであるがよりわかりやすくするために図式や身近なものへの応用などの説明をするなどして丁寧に講義されていた
- ・乳幼児期から学童期までの保育と教育現場での発達障害児の実状や支援を含む問題点などについて、新聞の情報や先生の経験を提示されており興味深かった。教科書に沿いながら、学士が自ら考えたり話し合ったりするなど、指導の流れが大変参考になった
- ・教具としてフラッシュカードを作成していたり、一人一人丁寧に対応していた
- ・心について生物と機械はどう違うのか、精神と物質とは別のものであるとのデカルトの話など興味深い話であった。学生と対話するスタイルで反応をみながら授業を進めていて参考になった
- ・個々の指導を丁寧にいき、それを全体に波及させるという手法が効果的であった。学生に考えさせる時間を十分に与えていた
- ・企業に就職して電話対応は重要な仕事であり、授業では実際に電話機を使い、シミュレーションしており、有効な手段だと感じた

3 FD研修会

<FD研修会内容>

- ・2019年度第1回FD研修会
 テーマ：「大学におけるキャリア支援」—教養力の向上—
 2019年8月1日（木） 8月定例教授会終了後（大会議室）
 （講師：志學館大学 人間関係学部 准教授 有松しづよ氏）
- ・2019年度第2回FD研修会
 テーマ：「いい授業を作ろう」
 2020年3月5日（木） 3月定例教授会終了後（大会議室）
 （講師：児童教育学科 教授 池田哲之 准教授 内田豊海
 講師 藤川和也）
- ・2019年度教職協働研修会
 テーマ：「大学修学支援法および同法施行にともなう本学の対応について」
 2019年9月5日（木） 教授会・コンプライアンス研修終了後（大会議室）
 （講師：志學館学園 法人本部企画管財部長 赤塚剛生氏）



◆2019年度「第1回FD研修会」内容

◆2019年8月1日（木）「2019年度第1回FD研修会」



大学におけるキャリア支援
 -教養力の向上-

2019年8月1日(木)

鹿児島女子短期大学 FD研修会
 志學館大学心理臨床学科 有松しづよ



令和元年8月1日

教職員 各位

FD委員長 平嶋

令和元年度 第1回FD研修会

1. 日時 8月1日（木）15:00~16:00
2. 場所 本館 大会議室
3. 内容
 - 1) 開会の辞（FD委員長）
 - 2) 学長挨拶
 - 3) 研修題

「大学におけるキャリア支援」 —教養力の向上—
 講師 志學館大学 人間関係学部
 准教授 有松しづよ

- 4) 閉会の辞

◆2019年度第1回FD研修会アンケート用紙

2019/8/1

令和元年度第1回FD研修会アンケート

①本日の研修会について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

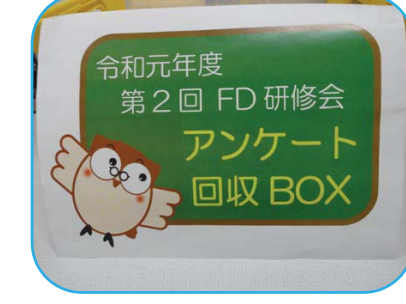
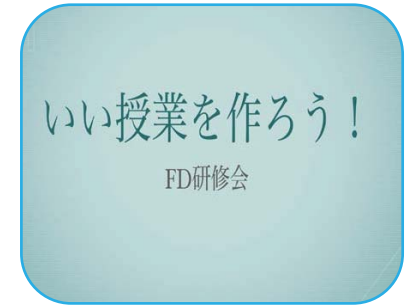
◆2019年度「第1回FD研修会」報告

2019年度 第1回 FD研修会

【アンケート結果】

- ・公務員採用試験に対する学習支援講座の開設等、有意義と思われる。また本学への入学者増への布石となり得る
- ・公務員試験対象者だけでなく、各学生の基礎学力の向上につながる可能性がある。本学の学生に対応したテキストを活用することで、各自で手軽に学べるので効率的かつ評価がわかりやすく、教員の指導や就職サポートがしやすいと感じた
- ・本学において今回のテーマを設定した意図や背景を最初に案内して欲しかった。教養教育の話なのか、公務員対策の話なのか目的がわかりにくかった。今回は教養力というより、狭い意味での教養だったように思う。
- ・『文章の書き方ハンドブック』は非常にいいので本学科でもそのまま導入させて欲しい。Workbookは短大の実情を考えると、厳しいと思う。
- ・FD研修を実施したというだけでなく、成果として何かを「実現できた」ように、何かしらの実現に向けて取り組んでいただきたい
- ・基礎的な知識は必要であると思う一方、本学では例示されたようなテキストを学生が自主的に進めていくかは疑問であり、結局やりなさいという指導が必要になりそう
- ・現在進行中の話題で参考になった。公務員合格が就職の基準となっていることが理解できた
- ・予算等必要なことがあり、担当者をしっかりと決め実施する必要性を感じた
- ・公務員試験等における一般教養という意味においては素晴らしく、現実的な取組だと思った。ただそれを教養力と呼んで良いのかという点に関しては疑問が残った
- ・公務員対策は在校生の就職のみならず、新入生獲得にも大きく影響する
- ・FDという観点からだと教員にどのようなDevelopmentを期待して今回の研修会をひらいたのかわからない。学生支援として全学的に公務員対策を行っていくにあたっての一例であろうか

◆2020年3月5日(木)「2019年度第2回FD研修会」



◆2019年度「第2回FD研修会」内容

令和2年3月5日

教職員 各位

FD委員長 平嶋

令和元年度 第2回FD研修会

1. 日時 令和2年3月5日(木) 教授会終了後
(16時10分～17時 予定)
2. 場所 本館 大会議室
3. 内容 1) 開会の辞 (FD委員長)
2) 研修題「いい授業を作ろう」
講師 池田哲之
内田豊海
藤川和也
3) 閉会の辞

◆2019年度第2回FD研修会アンケート用紙

2020/3/5

令和元年度第2回FD研修会アンケート

① 本日の研修会について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

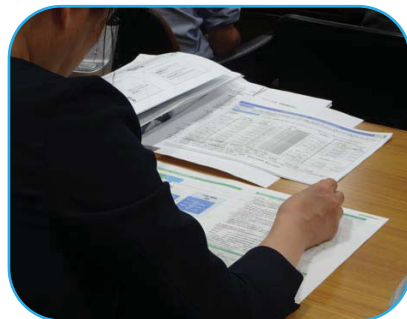
◆2019年度「第2回FD研修会」報告

2019年度 第2回 FD研修会

【アンケート結果】

- ・具体的でわかりやすい研修だった
- ・学生たちにわかりやすい授業とは、教える側が当たり前だと思わないこと、理解できていると思わないこと等、多くのことを学ぶことができた
- ・授業開始時のルール、空気感作りが大切だと言ったことがわかった
- ・学生に対し理解させたいポイントの効果的な提示方法など参考になった
- ・どのように教えるか、学生が何を身につけたかを考えながら授業を作らないといけないなと思った
- ・自分の長所を活かすにはどのようにしたらいいのかと思うとともに、自分らしい授業をしていけたらと思った
- ・池田先生の素晴らしい授業、参考にさせていただこうと思う
- ・FD研修の内容、授業公開週間、授業評価アンケートに基づく改善案の3つの日程がもう少しうまく調整できたらよかった
- ・お互いの授業を見合う文化のない大学で模擬授業を提供してくださった池田先生に感謝したい
- ・実践的かつ具体的で面白かった
- ・既習事項を前提としないことはわかるが、シラバスの事前学習で求めているものとの整合性や、毎回立ち戻っていたら積み上げていく授業の場合、いつまでも先に進めなくなる恐れがあり、そのような場合の解消策として、先生方の良いアイデアがあれば知りたい
- ・自然科学分野で学問体系自体が、人文科学や社会科学とは根本的に異なっている場合、アクティブラーニングにおけるアプローチも異なると思うので、その差異も知りたい

◆2019年9月5日(木)「2019年度教職協働研修会」



2019年度 教職協働研修会

- ・日 時 2019年9月5日 コンプライアンス研修 終了後
- ・場 所 本館大会議室
- ・主 題 「大学修学支援法および同法施行にともなう本学の対応について」
講師 赤塚 本部企画管財部長
- ・次 第
 1. 開会の辞 池田 教職協働委員会委員長
 2. 挨拶 幾留 学長
 3. 講演 赤塚 本部部长
 4. 質疑
 5. 閉会の辞 岩元 学生支援課長

＊ あとがき ＊

平成から令和への改元に象徴されるように、大学を取り巻く環境は、この数年来、急速に変化している。教務関連事項に限定したもののだけでも、FD (SD) 活動の義務化はいうにおよばず、3P の実質化、シラバスの緻密・構造化、アセスメントポリシー策定の要請その他、枚挙に暇はない。

われわれ大学人は、ともすればこうした改革の流れを追うに急なあまり、諸改革が唱えられるようになった背景に眼を向けることを怠りがちである。しかし、いうまでもなく、改革それ自身が目的化されてはならない。改革の奥底にある本質を見極めるのなら、そこには、大学で学ぶ学生たちに、予測不能の社会変化に即応しうる実力をいかに付与してゆくべきなのか、という真の命題が立見えてくるはずである。

そうした課題認識に立ち戻り、令和元年度は、2回のFD研修会と1回の教職協働研修会の開催、さらに通例の「授業評価アンケート」および「授業公開週間」を実施した。各研修会具体の効果は、本誌にも一部掲載してある参加教職員の感想・アンケートに詳しいが、本年度のFD研修会のあらたな趣向としては、例年の解説・評論型FDとは異なり、本学の現職教員が試擬授業を行い、同授業にたいする積極・消極の評価を他の本学教員が行うという形態のFD研修を実施したことがあげられる(第2回研修会)。いわば身内の一般教員の授業を生の素材に、その当否を全教員で考えてみるといったかたちのFDである。該FDへのアンケート結果を通覧するにすぎず、従前にも増して、授業改善に向けた当事者意識の高揚に資する研修にはなったようである。

なお、年度をまたぐ時期に、多くの大学が、新型コロナ禍による授業閉講に追い込まれるという事態が発生した。県内各大学の影響は、大都市部に立地する大学と「比較」するならば少なかったとも現時点ではいえるが、学校関係者は、新型コロナウイルスへの備えがこれからの校務運営にとって必要不可欠となる事実を否が応でも気づかされた。大学授業の実施との関連でとくに記すなら、遠隔授業の体制構築が今後喫緊の課題となつてこよう。

次年度のFD活動においては、かかる点もふまえ、学修の質保証をいっそう確実にしめる取組を展開してゆきたい。

教務担当学長補佐 池田 哲之

「鹿児島女子短期大学FD活動報告書」
(2019年度版)

鹿児島女子短期大学FD委員会
(2020年6月発行)